TV 報道検証【報道特集】　報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日：2019 年 5 月 25 日

出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子
福島隆史（TBS 解説委員：災害担当）、松本年弘（ロサンゼルス支局、キャラバンを取材）

検証テーマ：　トランプ大統領来日、オープニング、
山形県鶴岡市で自衛隊の砲弾を積んだトラックが海岸に転落、メイ首相が辞意を表明
【特集】キャラバンの故郷“世界で最も危険な街”

報道トピック一覧

・トランプ大統領来日
・オープニング
・千葉県で震度 5 弱の地震
・各地で真夏日に
・山形県鶴岡市で自衛隊の砲弾を積んだトラックが海岸に転落
・名神高速 2 人死亡事故
・メイ首相が辞意を表明
・関東で 50 を超える地点で真夏日
・28 歳の男をストーカー規制法違反の疑いで逮捕
・【特集】豪雨の危機をどう伝えるのか
・【特集】キャラバンの故郷“世界で最も危険な街”
・スポーツ報道

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・トランプ大統領来日：結論→特に問題なし

今日から三泊四日の日程で日本に滞在するアメリカのトランプ大統領がつい先程羽田空港に着陸したとのことが報じられるとともに、トランプ大統領の日本滞在中のスケジュールについて伝えられた。このトピックに当てられた 185 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・オープニング：結論→特に問題なし

金平キャスターがオープニングで「トランプ大統領が国賓として来日しました。新しい天皇陛下との会見に加え、大相撲観戦やゴルフ、高級炉端焼き、自衛隊の事実上の空母に乗るなどテレビ的には目を引く日程満載ですが日米間の諸問題をどれだけ解決に向かうのですか、そこをきちんと見ましょう。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は 19 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・山形県鶴岡市で自衛隊の砲弾を積んだトラックが海岸に転落：結論→特に問題なし

今日午前、山形県鶴岡市で自衛隊の砲弾およそ 10 トンを積んだ大型トラックが海岸に転落し、付近は一時立ち入りが規制されましたとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 64 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・メイ首相が辞意を表明：結論→特に問題なし

イギリスのメイ首相が EU 離脱を実現できないまま昨日辞意表明に追い込まれたとのことが伝えられるとともに、ロンドンから報告の VTR が取り上げられていた。

VTR では以下に朱記したように取り上げられていた。

メイ首相「国民投票の結果に応える道を探るのは私の後継者の仕事になります。

ナレ「その仕事は簡単ではありません、イギリスの EU 離脱の次の期限は 10 月 31 日です。保守党の次の党首、つまり新しい首相が決まるのは 7 月半ばとみられるのでスムーズに離脱するためにはさんヶ月あまりで議会の多数を得る離脱案をまとめなければなりません。現在の離脱協定を 3 度に渡って否決した議会の構成は変わらないため、EU 側が離脱協定の再交渉に応じるかどうかが大きな鍵となります。」

ナレ「現在、後継レースのトップを走っているジョンソン元外相は 24 日、合意のあるなしにかかわらず、10 月 31 日に離脱する、と述べました。ただし、強引章離脱は経済的打撃が大きく、議会は度々反対の意思を示してきました。仮にジョンソン氏が首相になってもこれは無視できないでしょう。」

ナレ「そうなると離脱の再延期という可能性もありますし、議会の構成を変えるために解散総選挙という選択肢も出て k ます、選挙になれば離脱は更に先延ばしです、保守党は明日にも結果が判明する EU 議会選挙では新党 EU 離脱党に大量に票を奪われると見られ、結果によっては解散を躊躇するかもしれません。」

アキバ聖治（報告）「万策尽きた形で辞意表明となったメイ首相ですけれどもあちらの官邸の次の主になる誰かが何らかの策を持っているかと言うと今の所層は思えません。」

このトピックに当てられた時間は秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】キャラバンの故郷“世界で最も危険な街”

アメリカへの入国を目指すキャラバンとその故郷について特集されていた。

VTR では以下に朱記したように取り上げられていた。

[VTR、1]

ナレ「メキシコ、ティファナ。アメリカとの国境沿いの街だ。壁の向こう側はもう、カリフォルニア。ティファナの国境検問所の前にある広場には、毎朝長い列ができている。アメリカへの難民申請を順番待ちする人たちだ。」

"エルサルバドル出身の男性（吹替）「5，6 週間は待たないといけないといわれたよ。」

ホンジュラス出身女性（吹替）「子供たちと国を出て、1 月にやっとたどり着いたの。難民申請は時間がかかると、聞いてる。5 カ月待っている人もいるみたい。」"

記者「ティファナの国境近くにあるこちらのシェルターなどで、難民申請の順番を待つ人たちが、生活をしています。」

女性（吹替）「面接は今、2511 番の人で、私は 2578 番。難民申請を待ち疲れて、ストレスが溜まっているわ。ここに来てからもう、1 か月半以上も待っているのよ。」

ナレ「中米、ホンジュラス出身の女性、半年前、4 人の子どもと、母国を後にした。」

ホンジュラス出身女性（吹替）「去年 11 月にキャラバンで出発したの。」

ナレ「キャラバンとは、中米諸国から、アメリカへの移住を目指す、移民集団のことだ。去年秋には、1 万人を超える大規模なキャラバンが、メキシコに流入。アメリカとの国境に向かって、世界中から大きな注目を集めた。」

ホンジュラス出身女児（吹替）「ホンジュラスは、犯罪が多いし、良いことはありません。それなりの年頃になると、女の子はレイプされるから、」

ホンジュラス出身男性（吹替）「仕事もないし、ギャングもいるし、生活するには、とても危険なんだ。」

ナレ「おりしも、アメリカ中間選挙の直前。この人は、押し寄せる移民たちに、厳しい姿勢を取り続けた。」

トランプ氏（字幕）「キャラバンの中にはとても悪い奴らがいる。」
ナレ「トランプ大統領は、キャラバンには犯罪者が紛れ込んでいる。アメリカにとって脅威だと、繰り返し主張。中間選挙の票稼ぎのために、国民の不安をあおっているとの批判が上がる中、キャラバンの入国を阻止するため、メキシコ国境沿いに 5000 人以上の兵士を派遣した。」
ナレ「しかし、今年に入っても、新たなキャラバンが、中米諸国から続々と出発。メキシコを通ってアメリカ国境に押し寄せていた。今年 3 月には、」
トランプ大統領（字幕）「メキシコがキャラバンを止めないならば、我々は国境を閉鎖するだけだ。閉鎖は長期になるだろう。ゲームをしているわけではない。」
ナレ「国境閉鎖の可能性にまで言及した。その背景にあるのが、不法入国者の急増だ。去年 10 月から、先月までに、メキシコ国境を不法に越えて拘束されたのは、46 万人あまり。前の年の同じ時期と比べて、2 倍以上だ。アメリカ国内で難民申請をするために不法入国する人が後を絶たないのだ。」
ナレ「メキシコ・ティファナにある移民のためのシェルター。この男性は、妊娠中の妻と、二人の子供を連れて、キャラバンに参加。ここにたどり着いたばかりだという。」
男性（吹替）「国境を超えるつもりだよ。ここでアメリカへの難民申請を待っていたら、お金もかかるしね。だから不法入国をやってみる。それでどうなるかだね。」
ナレ「こうまでしてなぜ母国を逃れなければならないのか。聞いてみると。」
"男性（吹替）「ホンジュラスに、両親と 11 人の兄弟がいるけど、ギャングに協力しなければ、全員殺すと脅されたんだ。」
女性（吹替）「息子がギャングに脅されたの、息子を守ろうとしたら、私も脅されたのよ。故郷はホンジュラスのサン・ペドロ・スーラの近くよ。」"
ナレ「キャラバンでやってくる人のふるさと、ギャングのはびこっている町とは、いったいどんなところなのか。」
記者「サン・ペドロ・スーラでは、今朝だけで 3 件の殺人があったといいます。」
[VTR、２]
ナレ「人口 930 万人ほどの中米、ホンジュラス。ここから 3000 キロ離れたアメリカへと、移民が押し押せている。貧困率は 6 割を超え、ラテンアメリカの中で、最も貧しい国の一つだ。中でも、第二の都市、サン・ペドロ・スーラはこんな不名誉な別名を持つ。世界で最も危険な街。」
記者「サン・ペドロ・スーラの郊外に来ています。頭部を銃で撃たれた男性の遺体が、あちらで見つかりました。」
ナレ「銃で頭を撃たれて殺害され、この場所に遺棄されたとみられる男性の遺体。シートが無造作に立てられ、放置されていた。子供連れの家族が遺体の近くを通ったが、さほど驚いた様子は無い。同じ日、先ほどの現場から、車で 30 分ほどの場所でも。」
記者「サン・ペドロ・スーラでは、今朝だけで 3 件の殺人があったといいます。現場には、遺体がまだ置かれたままです。」
ナレ「タクシー運転手の男性が、自宅の前で、車を洗っていた所、バイクの男に、いきなり銃で撃たれて殺害されたという。ホンジュラスの殺人発生率は、日本の 200 倍に達し、世界最悪レベル。中でも、サン・ペドロ・スーラの殺人発生率は、世界の都市別で、2014 年まで、4 年連続でワーストを記録した。地元テレビ局の記者は、」
地元テレビ曲記者（吹替）「ホンジュラスの人々にとっては、見慣れたです。毎日のように事件が起きてますからね。」
ナレ「事件を目撃していても、地元の住民は、警察やメディアに話すことはほとんどないという。殺人の大半に関与しているのが、ギャングで、報復を恐れているのだ。」

ナレ「中米のギャングたちは、元々、アメリカ・ロサンゼルスで、移民たちが組織した不良集団から始まった。1990 年代に母国に強制送還され、その後、中米各地で勢力を拡大させていった。ホンジュラスだけでも、2 万 5000 人ほどのギャングが、複数のグループに別れ、殺人や誘拐、麻薬取引など、あらゆる犯罪に、手を染めている。警察当局もギャングの取り締まりに躍起だ。地元警察のパトロールに同行することが許された。」
警察官（吹替）「警察と、ギャングの間で銃撃戦が起きることもあります。ギャングは、サン・ペドロ・スーラの貧しい地域を拠点に活動してるんです。」
ナレ「パトロール中、警察官の指は常にマシンガンの引金を引ける位置に置かれていた。ギャングの退治は 1 秒の反応の、遅れが命取りになる。」
警察官（字幕）「応答せよ。応答せよ。」
ナレ「ひっきりなしに通報が入る。パトロールに同行して、数十分後、一本の通報が入った。」
記者「今、何かトラブルがあったようです。警察が通報を受けて現場に急行します。」
ナレ「向かっている先は、ギャングが支配する貧しい地域。多くの人が集まり、何やら騒ぎになっているという。」
"警察官（吹替）「いないな。」
警察官（吹替）「誰もいないか。」
警察官（吹替）「ああ。一人もいない。」"
ナレ「その直後、現場近くにいた二人を呼び止めた。」
警察官（吹替）「壁に手をついて。」
ナレ「武器を持っていないか、確認する。」
"警察官（吹替）「運転免許証を見せて。」
警察官（吹替）「身元の確認をお願いします。」
警察官（吹替）「職務質問はいつも怖さがあります。武装しているかもしれませんから。」"
ナレ「このエリアでは、人々が他人の土地に勝手に家を建てて住んでいる。もちろん違法だが、サン・ペドロ・スーラには、ここと同じような貧困地区が点在していて、ギャングが支配し、その拠点になっているケースが、多いという。」
ナレ「そのギャングの対策を専門にしているのが、ホンジュラスの警察当局が立ち上げた特別チームだ。全身黒ずくめで、顔をマスクで覆っている。」
特別チーム員（吹替）「マスクで顔を隠しているのは、自分と家族をギャングから守るためです。一般市民を装って任務に就くこともありますから。2 年前にギャングに車を銃撃されて、同僚が命を落としました。」
ナレ「ギャングにとって大きな資金源となっているのが、商店やタクシー運転手などからのみかじめ料だ。」
記者「えー逮捕されたばかりのギャング女が出てきました。えー警察は毎日のように、ギャングのメンバーを逮捕しているということですが、いたちごっこだといいます。」
女（吹替）「不当逮捕よ。逮捕はおかしいわ。」
ナレ「この女も、ギャングの一員で、店からみかじめ料を脅し取ろうとした疑いがもたれている。」
特別チーム員（吹替）「最近はギャングが女性を勧誘して、構成員にとりこんでいます。事務の仕事をさせているんです。」
"女（吹替）「不当逮捕よ。私はフルーツを売っていただけよ。こんなことありえない。私は商売をしている。不当逮捕よ。」
特別チーム員（吹替）「乗れ。」
女（吹替）「何よ。」

特別チーム員（吹替）「乗れ」"
ナレ「警察によると、女が所属するギャングは、MS－１３（ｴﾑｴｽサーティーンだという。MS－１３は、中米ギャングの 2 大勢力の内の一つ。構成員はアメリカ大陸全土で、3 万人から 5 万人とされ、その凶悪さで、知られている。」
ナレ「トランプ大統領も、ms-13 について、たびたび言及している」
トランプ大統領（字幕）「MS－１３はケダモノだ。そんなやつらがアメリカに入り込んできているんだ。」
ナレ「先週も、ms-13 を名指しで非難し、強硬な移民政策の必要性を訴えた。」
トランプ大統領（字幕）「ギャングや犯罪者の入国を許さないことを明確にあするために、法律の抜け穴をふさぐ。MS－１３のようなやつは、世界で最も悪い連中だ。受け入れられない。入国は許さない。」
"ナレ「MS－１３はサン・ペドロ・スーラに多数の支配エリアを持つ。」
記者「あー13 って書いてありますね。ms-13 の目印ですね。」"
ナレ「私たちは。MS－１３の縄張りに足を踏み入れた。あちこちに見張りが居て、警察など、部外者が入ってきたら、すぐにメンバーに連絡が回るようになっているという。ms-13 をはじめ、ギャングたちは、こうした極めて貧しい地域に根を張る。住民たちを取材した。」
ナレ「子どもや孫 7 人で暮らしているレイラさん。」
レイラさん（吹替）「二人の息子の稼ぎはわずか、どちらも週に 3000 円くらいしかないわ。豆や砂糖、コーヒーが何とか買えるくらいかしら。」
ナレ「二人の息子が支えてくれてはいるものの、生活は困窮。もう一人の息子はこの貧しさから逃れるため、アメリカを目指したという。」
レイラさん（吹替）「もう一人の息子は、キャラバンに参加して、家を出たけど、あの子の身に何が起きているのか全く分からない。家を出た切り、連絡が途絶えてしまったから。戻ってくると信じてる。息子には二人の子供がいるの。」
ナレ「同じ地区に住む別の住民が自宅に案内してくれた。」
男性（吹替）「次のキャラバンがあると聞いたら、もちろん参加するよ。」
ナレ「二人の子どもたちと暮らすヘイメさん。次のキャラバンに参加する訳を、こう話す。」
ヘイメさん（吹替）「いいものを持っているなといって、ギャングが奪っていくんだ。だから故郷を逃れる人が後を絶たない。とられる価値があるのもは、もう何も残っていない。しいて言えば、この水筒くらいかな。」
ナレ「ギャングと貧困が新たな移民キャラバンを生み出し続ける現実、」
ヘイメさん（吹替）「貧しくて仕事が無いこの状況が、人々をギャングにしていく理由でもあるんだ。」
ナレ「中米ギャングの代表格ともいえる MS－１３。私たちは、その現役メンバーとの接触に成功した。」
運転手（吹替）「もう ms-13 のセクターの入り口だ。カメラを下ろせ。」
ナレ「取材に応じたのは、19 歳と 17 歳のだという、二人の男。」
男（吹替）「この銃は用心のために持っているんだよ。ミッションの時は組織からマシンガンのような大きな銃を渡されるからね。これはただの護身用さ。」
ナレ「二人とも、16 歳の時に、ms-13 のメンバーとなった。麻薬取引や恐喝など、ギャングの任務、ミッションは、メンバーごとに明確に分かれているという。」
男（吹替）「俺たちは、MS－１３の殺し屋だ。MS－１３の組織からターゲットの写真を見せられて、俺たちが実行する。緊急性が高ければ、その場で殺害するし、ターゲットが金持ちなら、誘拐して、拷問するんだ。」
ナレ「彼らのミッションは殺人と誘拐だ。」

男（吹替）「殺す相手は、他のギャングか、泥棒か、ミスを犯した人間だね。俺は５回だったかな。いや７回くらいミッションをこなしたよ。」
"男（吹替）「お前は何回ミッションをこなしたんだ。」
男（吹替）「８回かな。」
男（吹替）「殺人のミッションはお前は４回じゃないか」
男（吹替）「仲間と一緒にやったのは、８回。自分だけでやったのは４回だ。」"
ナレ「殺人の経験について、淡々と話すが、弱みも見せた。」
"男（吹替）「毎日ではないけど、ときどきぐっすり眠れないことがあるよ。いやな記憶がよみがえってきてね。」
男（吹替）「ミッションを実行したときの知らない誰かの顔が浮かぶんだ。」"
ナレ「二人は貧しい地区で生まれ育ち、ギャングに入る以外の選択肢は無かったという。」
男（吹替）「命令に背けば、自分が殺されるだけ。上からはお前は出世する。ただし抜ければ、死ぬって言われてる。」
ナレ「１７歳の彼は、過去にアメリカに不法入国を試みたが、国境近くで拘束されて、強制送還に。他に行く当てもなく、ふたたび組織に戻ったという。」
"男（吹替）「俺たちは将来の事なんか考えない。明日のことは考えず、目の前のミッションをこなすだけさ。」
男（吹替）「一寸先は闇。あんたたちとここにいる今この瞬間にだって、ライバルのギャングに殺されるかもしれないし。」
男（吹替）「もう終わりで良いか。」"
"記者（吹替）「あと一つか二つ質問させてくれませんか」
男（吹替）「この取材は上に話を通してないんだ。」"
ナレ「同じ日の夜。サン・ペドロ・スーラのバスターミナルには、数十人が集まっていた。大半がアメリカへの移住を目指す人々だ。」
男（吹替）「４回チャレンジして、2 回たどり着いたけれど、強制送還された。トランプは忌々しいが、アメリカに行けるまであきらめないよ。」
ナレ「彼らが、強制送還を免れて、国境にたどりついたとしても、アメリカへの難民申請には、数年かかることもあるという。その難民申請も 2 割前後しか、認められていないのが、現実だ。」
女性（吹替）「メキシコで警察に拘束されたわ。強制送還されて今日、戻ってきたばかりよ。この街ではこの子を養えない。またアメリカ行きをチャレンジするわ。」
ナレ「アメリカ国境まで、およそ 3000 キロの道のりがまたここから始まる。」
　VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。
膳場「えー取材にあたったロサンゼルス支局の松本記者と中継がつながっております。えー松本さん。あのホンジュラスの貧困。それからギャングが幅を利かせているひどい状況というのが分かりました。」
ロサンゼルス支局　松本年弘「はい話を聞いたギャングの二人は、まだ 10 代で、マスクを取った素顔はどこかあどけなさが残っていました。ですが一方で自分の人生をあきらめてしまっている印象も受けました。えー貧しい家庭の少年たちが、ギャングに取り込まれていくシステムが出来上がっていて、子どもが学校でドラッグを打っていることも珍しくないそうです。えーキャラバンに参加する理由は、ギャングの暴力や、犯罪からはもちろんなんですが、なによりギャングの勧誘から逃れたい。そんな若者や家族連れが少なくありません。」
日下部「えーホンジュラスのギャングというのは、元々はロサンゼルスなどから強制退去になった不良集団ですよね。えーある意味アメリカが生んだとも言えるんじゃないですか。」

松本記者「そうなんですね。ホンジュラスの今の混乱を招いた原因の一つは、アメリカが冷戦時代に共産主義化を阻止するために、軍事的支援を行ったからだという指摘もあります。つまりホンジュラスの貧困やギャングの問題は、アメリカ自身にもその責任があるはずなんですが、トランプ大統領は、不法移民対策が不十分だとして、今年 3 月にホンジュラスなどへの資金援助を打ち切りました。ただこれがホンジュラス国内の混乱に拍車をかけ、さらにアメリカを目指す人々が増える要因を作っていて、悪循環となっています。」
金平「えー松本さんね。あの来年の大統領選挙を控えて、トランプ大統領っていうのは、今後もこういう厳しい移民政策をですね、取り続けるんでしょうか。」
松本「はいトランプ大統領はキャラバンを侵略者。外敵に見立てていて、国民の不安をあおることで、強いリーダー像をアピールする手法も今後も取り続けると見られます。えー移民への強硬姿勢は、保守層や、移民に仕事を奪われたと感じる層、ここの支持固めに格好の材料でもあります。ただ一方で、アメリカは移民とともに国家が発展してきたという経緯があります。例えばここカリフォルニアでは、もともとは不法移民だったという人も多いんですが、彼らは自分たちが今のアメリカを支えているんだという自負もあり、トランプ大統領のやり方に反発する声は非常に大きいです。来年に控える大統領選挙でも、この問題が大きな争点となるのは、間違いなさそうです。」

この特集に当てられた時間は 1541 秒だった。

スタジオでのやり取りでは、日下部キャスターの「ホンジュラスのギャングというのは、元々はロサンゼルスなどから強制退去になった不良集団ですよね。えーある意味アメリカが生んだとも言えるんじゃないですか。」という発言や松本記者の「ホンジュラスの今の混乱を招いた原因の一つは、アメリカが冷戦時代に共産主義化を阻止するために、軍事的支援を行ったからだという指摘もあります。つまりホンジュラスの貧困やギャングの問題は、アメリカ自身にもその責任があるはずなんですが、トランプ大統領は、不法移民対策が不十分だとして、今年 3 月にホンジュラスなどへの資金援助を打ち切りました。ただこれがホンジュラス国内の混乱に拍車をかけ、さらにアメリカを目指す人々が増える要因を作っていて、悪循環となっています。」という発言のようにアメリカに責任を求める論調が極めて目立っていた。

しかし、ロサンゼルスの不良集団と言ってもアメリカの市民権を持ったアメリカ国民であればアメリカも強制退去とはしないとすれば、ロサンゼルスなどから強制退去となった不良集団というのはもともとアメリカ市民ではなかったわけで、それをアメリカが強制退去させたものが退去先でギャングになったからと言って、それは「アメリカが生んだものだ」などというのは言いがかりも甚だしいものではなかろうか。

また、今日においては共産主義勢力が行ってきた非道の全容とは言えないまでもかつてよりは明らかとなっているが、各国の共産化を目論む勢力に対抗しての軍事的支援にホンジュラスの混乱の一因があるとすれば、ホンジュラスの共産化を目論んだ勢力や共産主義思想を広めた人々にもホンジュラスの混乱の一因があると言えるだろう。

今回の特集は VTR 自体はそれほど問題のあるものではなかったが、スタジオの論調はあまりに一方的にアメリカを断罪するものであり、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点からはやや疑問のあるものであった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感 　特になし